

夕方、「タイガーマスク」と、敵のレスラーの格闘シーンが娯楽室のテレビに映った。一宮市の児童養護施設「ともいき」の職員、飯尾百恵さん(三四)がレンタル店から借りてきたDVDだった。

四十代以上の大人にはおなじみだが、男の子たちは初めて見るヒーローにくぎ付け。「あれが伊達人?」「あんな技、どうやってかけるのだろう」。飯尾さんは「贈り物をくれた人だから、感謝しなくちゃね」とほほ笑んだ。

三年目の飯尾さんは小学生以上の男の子の世話係。子どもたちが学校から帰つくると、まず宿題を指導する。入浴と夕



児童養護施設だより

食を済ませて、寝かし付け。泊まり込みの宿直も月に三、四回になります。

「体はつらいけど、みんなのかわいさが忘れさせてれます」と飯尾さん。ある男の子の存在が支えになっているとい

## 家庭のように

その子は、母親の虐待で入所した。根は優しいけど、時に暴力的になる。だから、飯尾さんの手の甲はあざだらけ。あ



う。」「伊達人?」「あんな技、どうやってかけるのだろう」。飯尾さんは「贈り物をくれた人だから、感謝しなくちゃね」とほほ笑んだ。

三年目の飯尾さんは小学生以上の男の子の世話係。子どもたちが学校から帰つくると、まず宿題を指導する。入浴と夕

情はつれしきりだった。なつうと意気込んでいました。「(この子の親代わりに)したが、やはり実の親がね」。それ以来、「親」県の指導を受け、施設ではなく「職員」の立場で、家庭的な環境をつくることに徹している。

ともいきは、市営の「仲好寮」を受け継いで二〇〇一年に開所。当時から勤める戸高勉さん(三三)は「職員の士気が子どもたちの生活態度に直接影響する」と、自らに言い聞かせるように話す。

施設内は当初、荒れた霧雨気。不登校や万引き事件が相次いだ。〇三年に元施設長による運営費の使い込みが発覚し、すぐ下校した小学生に宿題を指導する飯尾百恵さん(一宮市春明の「ともいき」で

「感謝の心を覚え、彼女の笑みを浮かべる自身の姿が描かれていた。」「感謝の心を覚え、彼女はともいきから卒業していくます。(この)に勤めてよかつたなと思います」と話す内田さん。その横では、女の子が「ウツチー、こっちに来てよ」と手招きをしていました。

(この連載は谷悠)が担当しました)

春明の児童養護施設「ともいき」一階の食堂に、ホットカーペットが敷かれた。子どもたちが身を寄せ合い、職員が作った年越しそばを食べながら新年を迎えた。

入所する六十人のうち、親の虐待や経済的な理由などで、半数近くが年末年に一時帰宅をしなかった。そのうちの一人、中学生になる少女は土曜日の午後、玄関前でダンスの練習をしていた。

韓国人気アイドルグループの曲に合わせ、激しいステップを繰り返す。本格的なレッスンを受けていた。

大みそかの夜。一宮市

春明の児童養護施設「ど



児童養護施設だよ

設の決まりで学校の部活

動以外の習い事はできな

「もう家には帰りたく葉の暴力を受けるとい

う。」「ダンサーになりたい

した。今も会ったびに言

い。」「ダンサーになりたい

た。」「ダンサーになりたい

た。」「ダンサーになりたい

た。



児童養護施設だより

「ランドセルや文具、ぬいぐるみなど「伊達直人」たちからの贈り物を飾った玄関。女の子が近づき、親しげに話しかけてきた。「お兄さんがタイガーマスクなの?」

「違うよ」とやんわり否定して、一階の大部屋へ。ドアを開けた途端、小さな手がいくつも伸びてきた。

「これ読んで」と絵本を差し出す子もいれば「トランプしよう」「お絵描きを見て」と遊びのお誘いも。

一人を抱っこしたら「僕も」「次は私よ」の大合唱が始まった。職員に「全員やるまで許してくれないので、覚悟してくださいね」と笑われた。

一宮市春明の児童養護施設「ともいき」では、十二畳の大部屋に常時十五人の幼児を受け入れて、国が給料を支払っている。

## 愛情を求めて



①大部屋の幼児たちは入浴後、ひとかたまりになってテレビを見ていた  
②「伊達直人」から届いた新品のランドセル。6人の新入学生に対して14個も寄付が寄せられた=いずれも一宮市春明の「ともいき」で



◇ 「タイガーマスク」の主人公を名乗る寄付運動が全国に広まって一ヶ月。「ともいき」にも、多くの善意が寄せられた。虐待や育児放棄などさまざまな事情で、保護者と同居できない子どもたちはどんな生活をしているのだろう。心優しく贈り主たちに伝えなくて、記者が訪ねた。

**児童養護施設** 児童福祉法に基づき、家庭で養育できない2~18歳の子を受け入れる全寮制施設で、主に社会福祉法人が国庫補助を受けて運営。全国579カ所あり、昨年6月現在で3万人が暮らす。県内には32カ所。西尾張には「ともいき」と、同じ法人が運営する「照光愛育園(じょうこうあいいくえん)」(一宮市丹陽町)がある。

当ります)

# 遊び相手を取り合う

職員数は、児童四人につき一人までと決まっています。

小学男児の三人に割り当てられた部屋は同じ一人の子どもはほんのわ

夕食の時間、隣に座つ

「お兄さんもお酒、飲むの?」と聞いてきた。

「好きだよ」と答えてからしまった、と思つた。彼女は「飲んだらダメだよ」と笑つてくれた。

帰り際、再び幼児たちがいる大部屋をのぞいた。案の定、手を引っ張られ、「帰らないでよ」と懇願された。寂しげに見つめる無数の目をしっかり見返せなかつた。

る。職員が接する時間は階の六畳間。六年の一人ずか。ほとんどは施設がおのずと限られ、甘えたが「この先生がくれたがいい」とつぶやいて盛りの子どもたちは「愛んだよ」と、大切そうに情に飢えている」とい

う。ランドセルを見せてくれ動に感謝しています」と、施設長の番勝彦さん

び、依存症で、面会の約束を破つたことを恨んでいる

そうだ。